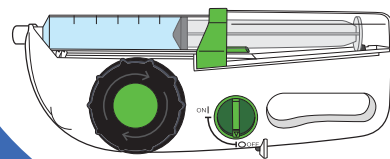


フリーダム60用

\*使用するシリンジの容量は50mLです。

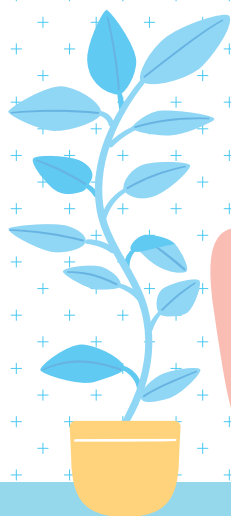


キュービトル®による治療を受けられる  
患者さん・ご家族の方へ

# キュービトル® 自己注射マニュアル

監修：岡田 賢 先生

広島大学大学院医系科学研究科 小児科学 教授



# はじめに

キュービトルは、免疫グロブリン\*を補充するための「皮下注用人免疫

グロブリン製剤」です。\* 病原体や異物にくっついて、感染症を防ぐ役割をもつ物質の一種

この冊子では、自己注射の手順や注意事項を紹介しています。

ご自宅で自己注射を実施される際に、ぜひお読みください。

キュービトルの自己注射を行う際は、次のことに留意しましょう

- 主治医の許可が必要です。
- 医療従事者の指導を受ける必要があります。
- 注射の量や速度、注射部位、スケジュールは必ず主治医の指示にしたがってください。  
(間違えて注射した場合は、主治医に連絡してください。)

## 目次

- キュービトルの管理 ..... p.3
- 注射部位について ..... p.3
- 自己注射の手順 ..... p.4
  - 準備 ..... p.6
  - 注射 ..... p.14
  - 片付け・記録 ..... p.22
- 速度調整チューブ/翼状針の種類と投与速度 ..... p.24
- Webサイトのご紹介 ..... p.25
- よくある質問 Q & A ..... p.26

# キュービトルの管理

キュービトルは、凍らせないように  
25℃以下で保存してください  
ご使用前には、最終有効年月日(箱に記載)を  
必ず確認しましょう

お薬は、医療機関から提供  
される遮光しゃこうの保冷バッグで  
持ち帰ってください。

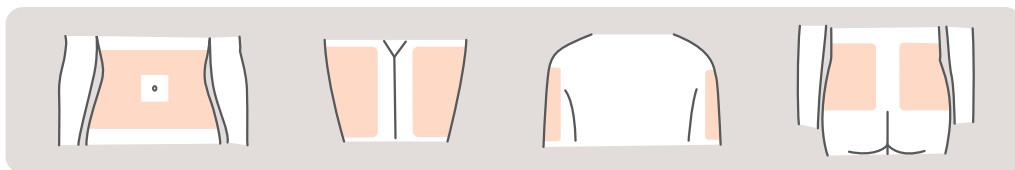


冷蔵庫で保存する場合は、箱に入れたまま、  
凍らせないように保存してください。



## 注射部位について

- お腹なか、太ももうで、二の腕こし、腰の外側のいずれかの部位に注射します。ご自身で注射する場合には、お腹と太ももが選べ、ご家族が注射する場合には、お腹と太ももに加えて二の腕と腰の外側も選べます。
- お腹に注射する場合、おへそから5cm以上離します。はな
- 骨ほねばった部位、目に見える血管けっかん、傷・傷跡きずあと、炎症えんしやう(赤く、ヒリヒリする)のある部位などは避けましょう。
- 前回と同じ部位に注射する場合、針さを刺す位置は少しずつ変えてください。



※複数箇所ちゆうじゆうに注射する場合、それぞれ5cm以上間隔をあけてください。  
1つの注射部位につき、刺す針は1つまでとしてください。



- 注射部位と注入速度ちゆうじゆうについては、主治医の指示を受けてください。
- 複数箇所ちゆうじゆうに同時に注射する場合は、主治医の指示にしたがってください。

# 自己注射の手順

自己注射の前にはお手洗いを済ませるなど、  
余裕をもったスケジュールを立てましょう

注射の準備をする前に . . . . . p.5

## 準備 (約15分)

必要物品 . . . . .	p.6
バイアルの確認と準備 . . . . .	p.7
シリンジの準備 . . . . .	p.8
プライミング(単針の翼状針)*1 . . . . .	p.11
プライミング(2又の翼状針) . . . . .	p.12

\*1 チューブから空気を抜き、針先手前までお薬を満たすこと

## 注射 (約1時間~2時間\*2)

注射(針を刺す)	
・単針の翼状針での注射 . . . . .	p.14
・2又の翼状針での注射 . . . . .	p.16
輸注ポンプのセッティング . . . . .	p.18
お薬の注入 . . . . .	p.19
抜針(針を抜く) . . . . .	p.20
針の廃棄 . . . . .	p.21

\*2 初回と2回目の注入にはもう少し時間がかかります

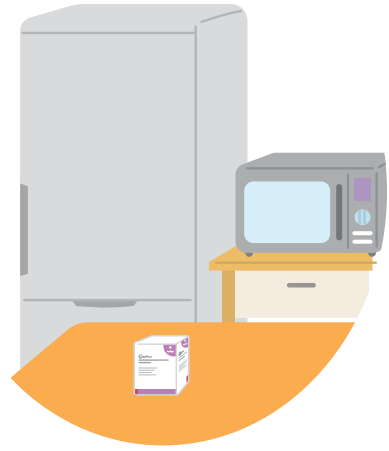
## 片付け・ 記録 (約10分)

片付け . . . . .	p.22
記録 . . . . .	p.23

※ これらの時間は目安です。  
注射にかかる時間は、お薬の量、使う針、注入のスピードなどによって前後します。  
特に、初回と2回目のキュービトルの注入には、時間がかかります。

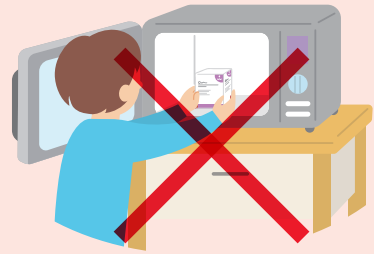
## 注射の準備をする前に

冷蔵庫でお薬(バイアル)を保存している場合は、注射を始めるおおよそ**90分前**に箱ごと取り出しておきます。バイアルは箱に入れたまま平らな場所に置き、室温に戻します。お薬が冷たいと、注入するとき痛みを感じやすくなります。また、お薬のねばり気が増し、注入がスムーズにいかなくなってしまいます。



### 直射日光・高温は避ける

- ちやくしやにっこう 直射日光があたる場所や、熱を発する物のそばにバイアルを置かないでください。
- 早く室温に戻すために、バイアルを水やお湯につけたり、電子レンジなどを使用して温めたりしないでください。お薬の有効性や安全性に影響が出る可能性があります。



### お薬を激しく振らない

- はげ 激しく振ると、多量の泡ができて、注入量が不正確になります。



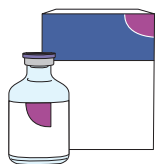
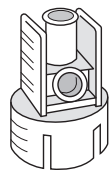
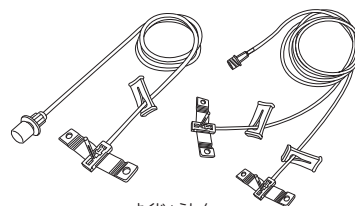
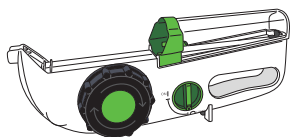
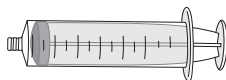
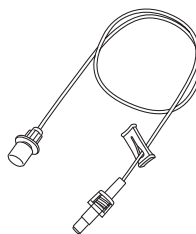
### 一度室温に戻したバイアルは冷蔵庫に戻さない

- お薬の有効性や安全性に影響が出る可能性があります。



カウンターやテーブルの上を片付け、消毒します。  
お手洗いや手拭きも済ませておきましょう。

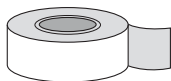
## 必要物品

キュービトル  
バイアルツートック®  
さいえきしん  
(採液針)よくじょうしん  
翼状針\*  
(HiGH Flo 24G)輸注ポンプ  
(フリーダム60)フリーダム60専用シリンジ  
(50mL)速度調整チューブ\*  
(プレジジョンチューブ)患者日誌  
(My キュービトル)\* チューブの種類については、  
p.24をご参照ください。

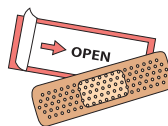
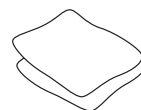
## ご自身または医療機関でご用意いただく物



アルコール綿



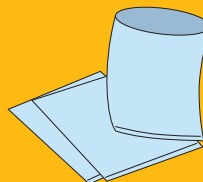
サージカルテープ

ばんそうこう  
絆創膏

ガーゼ

はいき  
廃棄容器

廃棄ボックス

廃棄用  
ビニール袋

## バイアルの確認と準備

### 石けんで両手をよく洗う



### バイアルを開ける前に、必ず次のことを確認する かくにん

- 「保護キャップ」にゆるみはありませんか？
- ビンが割れていたり、ひびが入ったりしていませんか？
- 液体の色は「無色、薄黄色または薄茶色」で、にごりはありますか？
- 液体の中に、異物（小さい固形物）がありませんか？（泡は問題ありません）
- 「使用期限」は切れていませんか？（バイアルのラベルに記載があります）



保護キャップ

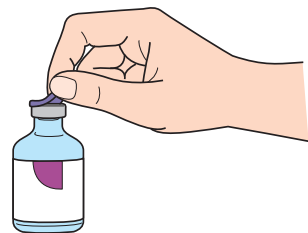


**!** ■ 異常や心配なことがあるときは、手順を中断し、主治医に連絡してください。

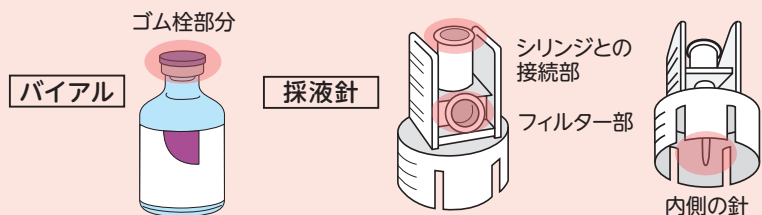
■ バイアルの箱は捨てないでください。投与終了後、使用済みバイアルを箱に入れて医療機関にお持ちください。（p.22）

## バイアルを準備する

- お薬が室温になっていることを確かめ、バイアルの保護キャップをはずします。
- バイアル上部のゴムの部分を、消毒用アルコール綿で丁寧に拭き、完全に乾くまでそのまま待ちます。



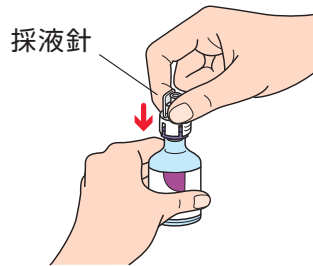
**!** バイアルのゴム栓部分、採液針のシリンジとの接続部、フィルター部、内側の針は、手で直接触らないでください。



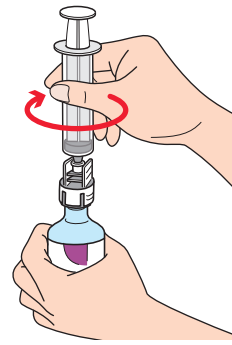
## シリンジの準備

## バイアルとシリンジをそれぞれ採液針に取り付ける

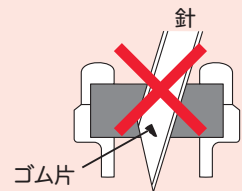
- 採液針をバイアルに垂直に刺しこんで取り付けます。



- 採液針にシリンジを取り付け、矢印の方向にまわして固定します。



- 採液針のシリンジとの接続部、フィルター部、内側の針に、手やテーブルなどが触れないよう清潔に作業してください。
- 採液針はバイアルにまっすぐ刺しこみます。  
※ ななめに刺すと、針でけずり取られたゴム片がお薬の中に入ってしまうことがあります。
- 一度刺しこんだら抜かないでください。
- 採液針をバイアルに取り付けたら、できるだけすみやかにシリンジを取り付けてください。

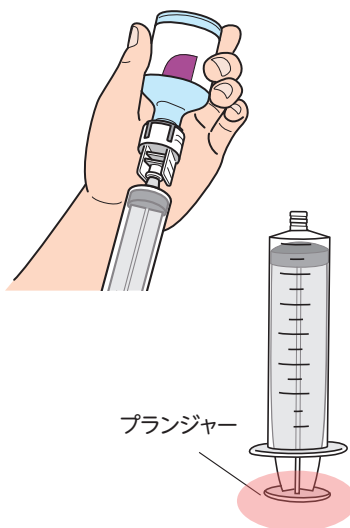


## お薬をシリンジに抜き取る

- バイアルをまっすぐ逆<sup>さか</sup>さにし、プランジャー（ピストンのように動く部分）をゆっくり引いて、お薬を抜き取ります。このとき、泡や空気がみられても問題ありません。

※ シリンジに抜き取るお薬は、実際の注入量にプライミングの分（チューブの量）を加えた量になります。詳しくは主治医の指示にしたがってください。

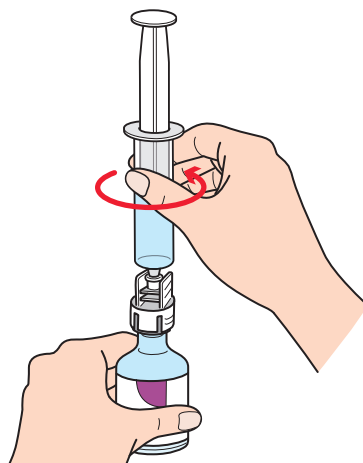
抜き取る量 = (                      ) mL



- バイアル2本分以上のお薬を1本のシリンジに入れる場合は、空になったバイアルと採液針を取りはずし、新しい採液針とバイアルを同じ手順で取り付け、同様にプランジャーをゆっくり引いてお薬を抜き取ります。このとき、採液針の内側の針に触れないよう注意してください。
- 新しいバイアルの確認、ゴム部分の消毒 (p.7) も必ず行ってください。

## 採液針からシリンジを取りはずす

- シリンジを上にし、矢印の方向にまわして採液針からはずします。

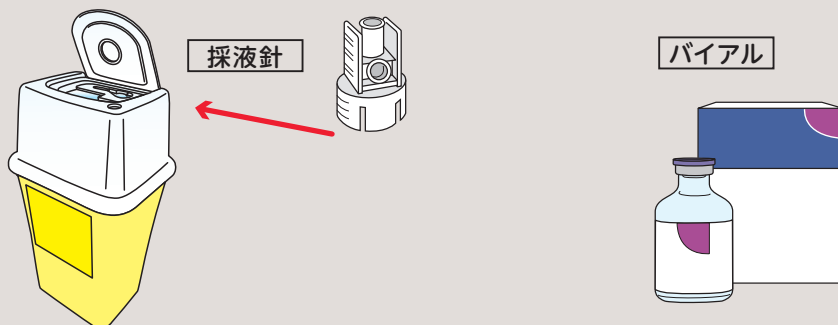


- シリンジの先がテーブルなどに触れないよう注意してください。
- お薬をうつして注射できる状態<sup>しょうたい</sup>になったシリンジは、小さなお子さまの手の届かない<sup>とど</sup>安全で清潔な場所に置いておいてください。

使い終わった採液針はバイアルから取りはずし、廃棄ボックスに入れます。

バイアルは廃棄ボックスには入れず、そのまま元の箱に入れてください。

詳しくは「片付け(p.22)」をご覧ください。

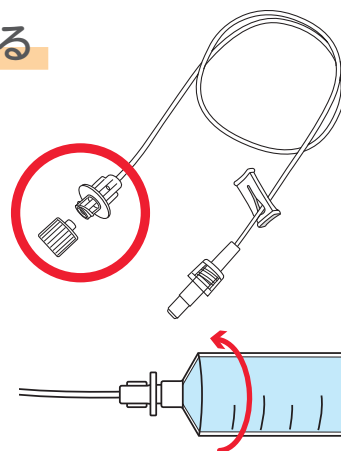


バイアルに残ったお薬は再使用せず、バイアルごと箱に戻し、廃棄用ビニール袋に入れてください。廃棄用ビニール袋の処理については、医療機関にご確認ください。

## シリンジに速度調整チューブを取り付ける

\*チューブの種類については、p.24をご参照ください。

- 速度調整チューブの接続部分のキャップをはずしてチューブをシリンジに取り付け、シリンジを矢印の方向にまわして固定します。



速度調整チューブの種類=F ( )

- 注入速度を変更するには、速度調整チューブを交換する必要があります。p.24をご参照いただき、翼状針ごとに記載されている速度に対応する速度調整チューブを選択してください。
- 速度調整チューブの種類が主治医から指示されたものであるか、パッケージに記載の型番(F○○○)を必ず確認してください。
- シリンジと速度調整チューブの接続部分に触らないよう注意してください。
- 速度調整チューブの先がテーブルなどに触れないよう注意してください。

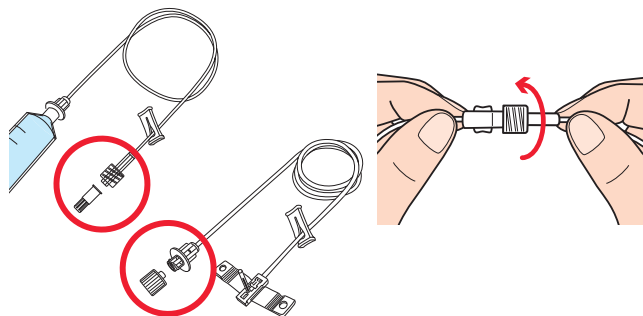


## プライミング(単針の翼状針)

プライミングとは、チューブから空気を抜き、針先手前までお薬を満たすことです。

### 速度調整チューブに翼状針を取り付ける

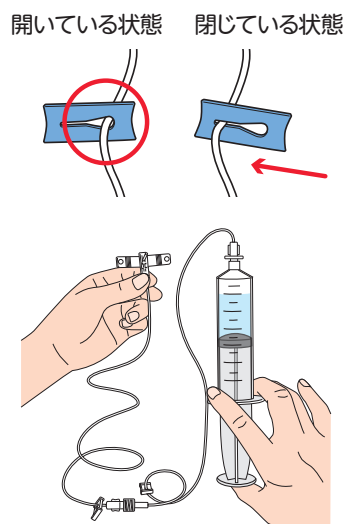
- 速度調整チューブのキャップと翼状針の接続部分のキャップをはずします。2つのチューブを接続し、矢印の方向にまわして固定します。



- 速度調整チューブと翼状針の接続部分に触らないよう注意してください。
- 針先がテーブルなどに触れないよう注意してください。

### シリンジの空気を抜き、チューブから針先手前までお薬を満たす

- 速度調整チューブと翼状針のチューブのクリップが開いていることを確認します。閉じているときは、クリップをスライドさせて開放してください。
- シリンジを上に向けて、チューブと針先を見ながらゆっくりプランジャーを押し、空気を抜いて針先手前までお薬を満たします。針先手前までお薬が届いたことが確認できたら完了です。針先からお薬がたれないよう注意してください。
- プライミング後は速度調整チューブと翼状針のチューブのクリップを閉じます。
- シリンジ内のお薬が指示された注入量になっていることを確認します。



- ひふ皮膚に針を刺した状態でプライミングしないでください。
- お薬を針先からたらないよう注意してください。  
※ 薬液が皮膚に付着した場合、ちゅうしゃぶい注射部位が赤くなったり腫れたりする原因になります。
- 注入開始前に、もう一度、チューブから空気が抜けていることを確認してください(小さな泡は、残っていても問題ありません)。

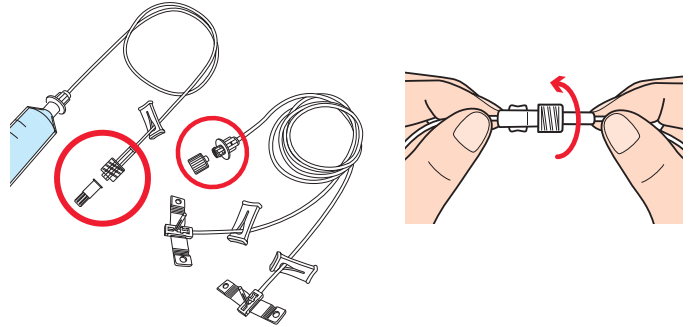
## プライミング(2又の翼状針)

※ 3又の翼状針の場合も同様の手順で行ってください。

- 2又の翼状針のチューブは、1本ずつプライミングを行います。

### 速度調整チューブに2又の翼状針を取り付ける

- 速度調整チューブと翼状針の接続部分のキャップをはずし、2つのチューブを接続します(p.11参照)。



- 速度調整チューブと翼状針の接続部分に触らないよう注意してください。
- 針先がテーブルなどに触れないよう注意してください。

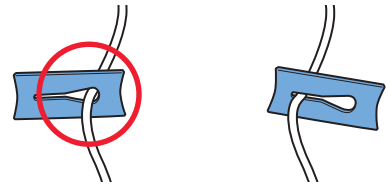
### 1本目の翼状針のチューブの針先手前までお薬を満たす

- 速度調整チューブと1本目の翼状針のチューブのクリップを開けます。

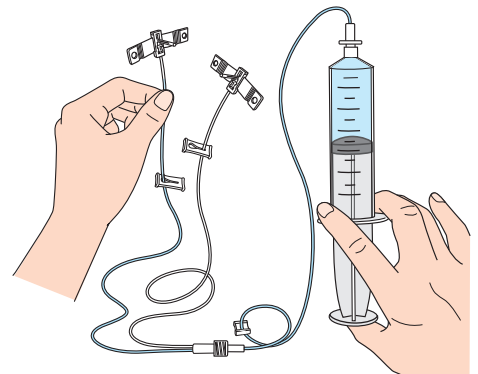
※ 2本目の翼状針のチューブのクリップがしっかりと閉じていることを確認してください。

速度調整チューブと  
1本目の翼状針のチューブ  
開いている状態

2本目の  
翼状針のチューブ  
閉じている状態



- シリンジを上に向けて、1本目の翼状針のチューブと針先を見ながらゆっくりプランジャーを押し、空気を抜いて針先手前までお薬を満たします。  
針先手前までお薬が届いたことが確認できたら完了です。針先からお薬がたれないよう注意してください。



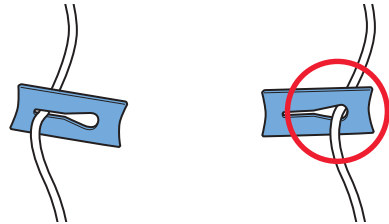
- プライミング後は1本目の翼状針のチューブのクリップを閉じます。

## 2本目の翼状針のチューブの針先手前までお薬を満たす

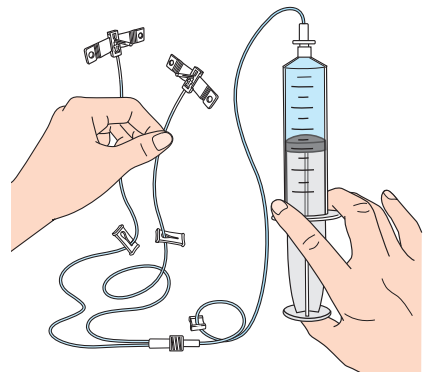
- 2本目の翼状針のチューブのクリップを開けます。

※ 1本目の翼状針のチューブのクリップがしっかりと閉じていることを確認してください。

1本目の翼状針のチューブ 閉じている状態  
速度調整チューブと 2本目の翼状針のチューブ 開いている状態



- 1本目の翼状針のチューブと同様に、2本目の翼状針のチューブのプライミングを行います。  
針先手前までお薬が届いたことが確認できたら完了です。針先からお薬がたれないように注意してください。



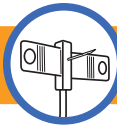
- プライミング後は速度調整チューブと2本の翼状針のチューブのクリップを閉じます。
- シリンジ内のお薬が指示された注入量になっていることを確認します。

注入量 = (                      ) mL



- 皮膚に針を刺した状態でプライミングしないでください。
- シリンジを安定させてゆっくり操作してください。
- お薬を針先からたらさないよう注意してください。  
※ 薬液が皮膚に付着した場合、注射部位が赤くなったり腫れたりする原因になります。
- 注入開始前に、もう一度、チューブから空気が抜けていることを確認してください(小さな泡は、残っていても問題ありません)。

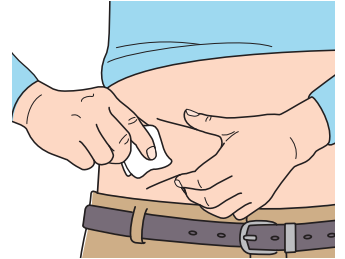
## 注射(針を刺す)



## 単針の翼状針をお使いの方

## 消毒用アルコール綿で注射部位を消毒する

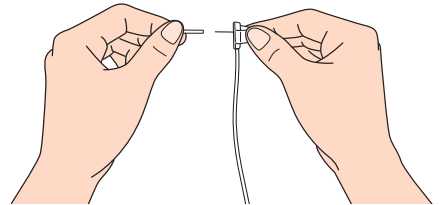
- 注射部位の中心から円を描くように外側に向かって消毒します。
- 消毒後は、完全に乾かしてください。乾くのを待つ間に、固定のためのサージカルテープを切って用意しておきます。



注射部位は毎回変更し、これまでの注射でトラブル(赤くなった、腫れたなど)があった部位を避けてください。

## 針キャップをはずす

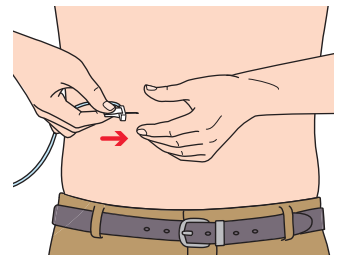
- 翼状針を持ち、針についているキャップをはずします。



針で指を刺さないよう、十分に注意してください。

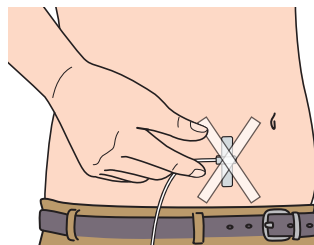
## 注射部位に針を刺す

- 皮膚をつまみ、皮膚に対して90°の角度で翼状針を根元までいっきに刺します。



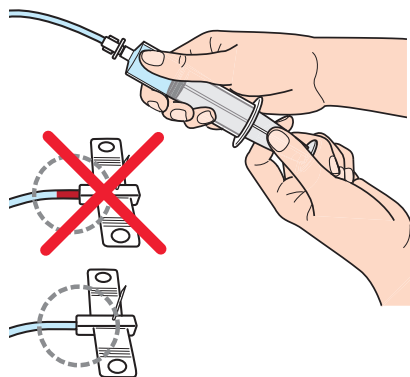
## 針を固定する

- 翼状針の上から、サージカルテープをななめにこさ交差するように貼り、翼状針がずれないように固定します。



## 血液の逆流がないことを確認する

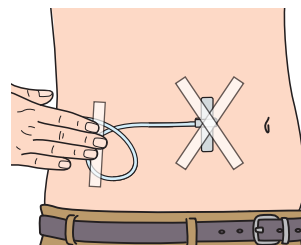
- 速度調整チューブと翼状針のクリップを開けます。
- シリンジのプランジャーをゆっくり引いて、チューブに血液が逆流しないことを確認し、すべてのチューブ(翼状針のチューブと速度調整チューブ)のクリップを閉じます。



チューブに血液が逆流した場合は、<sup>いったん</sup>針を抜き、翼状針を速度調整チューブからはずして廃棄し(p.21)、新しい翼状針で、もう一度プライミング(p.11)からやり直してください。

## チューブを固定する

- チューブをたるませ、サージカルテープで注射部位周辺の1ヵ所に固定します。



- 注入の途中で針が抜けないうっかり固定してください。
- 複数の部位に分けての注射(p.16)は、主治医の指導を受け、指示にしたがってください。

## 注射(針を刺す)

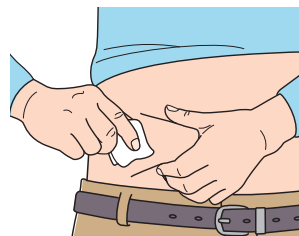


## 2又の翼状針をお使いの方

※ 3又の翼状針の場合も同様の手順で行ってください。

## 1カ所目の注射部位を消毒する

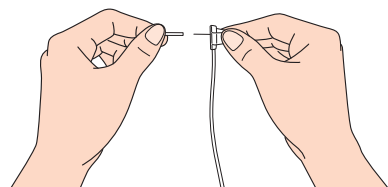
- 注射部位の中心から円を描くように外側に向かって消毒します。
- 消毒後は、完全に乾かしてください。乾くのを待つ間に、固定のためのサージカルテープを切って用意しておきます。



- 2カ所に注射する場合は、体の両側に1カ所ずつ注射します。
- 注射部位は、それぞれ5cm以上間隔をあけてください。
- 注射部位は毎回変更し、これまでの注射でトラブル(赤くなった、腫れたなど)があった部位は避けてください。

## 針キャップをはずす

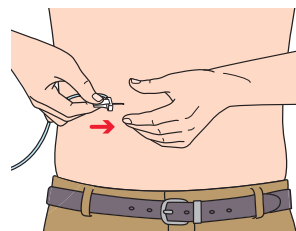
- 1カ所目に刺す翼状針を持ち、針についているキャップをはずします。



！ 針で指を刺さないよう、十分に注意してください。

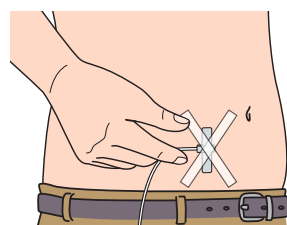
## 注射部位に針を刺す

- 1カ所目の注射部位の皮膚をつまみ、皮膚に対して90°の角度で翼状針を根元までいっきに刺します。



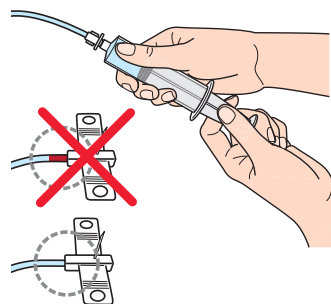
## 針を固定する

- 翼状針の上から、サージカルテープをななめに交差するように貼り、翼状針がずれないように固定します。



## 血液の逆流がないことを確認する

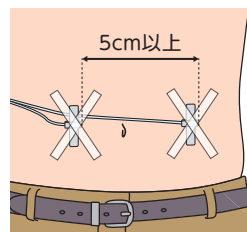
- 速度調整チューブと1カ所目に刺したチューブのクリップを開けます。
- シリンジのプランジャーをゆっくり引いて、チューブに血液が逆流しないことを確認し、1カ所目のチューブのクリップを閉じます。



- 刺していないチューブのクリップが閉じていることを確認してください。
- チューブに血液が逆流した場合は、一旦針を抜き、翼状針を速度調整チューブからはずして廃棄し(p.21)、新しい翼状針で、もう一度プライミング(p.12)からやり直してください。

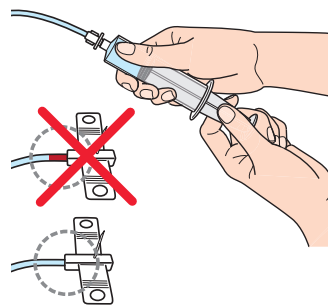
## 2カ所目も1カ所目と同様の手順で行う

- 注射部位を消毒します。
- 針キャップをはずします。
- 注射部位に針を刺し、サージカルテープで固定します。



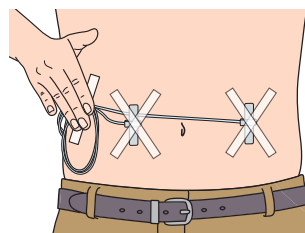
- 注射部位はそれぞれ5cm以上間隔をあけてください。また、おへそから5cm以上離して注射してください。
- すでに刺したチューブのクリップが閉じていることを確認してください。

- 2カ所目に刺したチューブのクリップを開けます。
- 血液の逆流がないことを確認し、すべてのチューブ(2カ所目に刺した翼状針のチューブと速度調整チューブ)のクリップを閉じます。



## チューブを固定する

- 2本のチューブをたるませ、サージカルテープで注射部位周辺の1カ所にまとめて固定します。

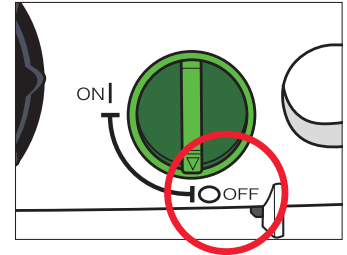


- 注入の途中で針が抜けないようにしっかり固定してください。

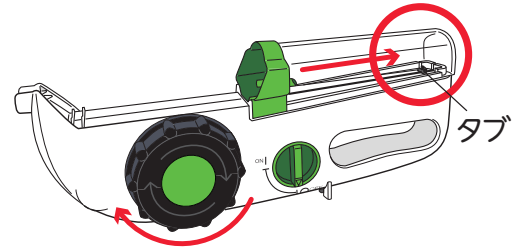
## 輸注ポンプのセッティング

### シリンジを輸注ポンプにセットする

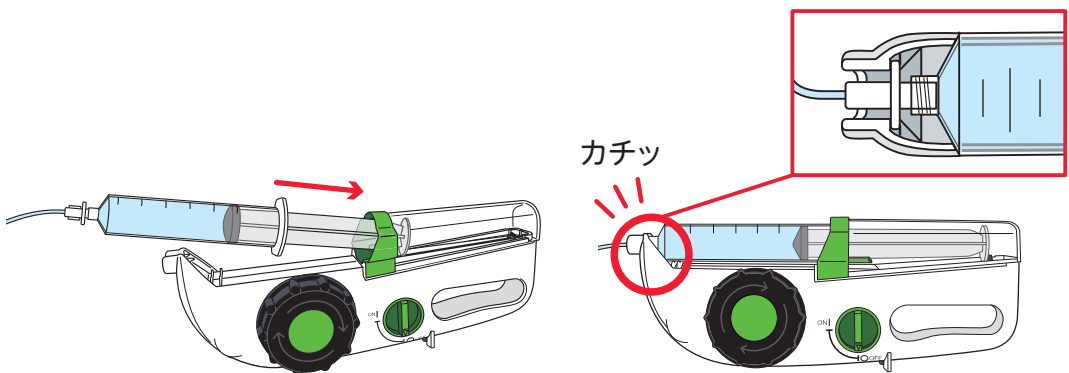
- 輸注ポンプのダイヤルがオフ(OFF)の位置にあることを確認します。



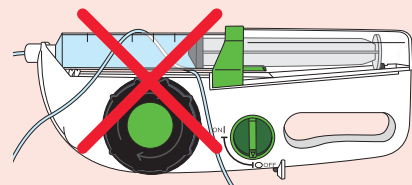
- 輸注ポンプの黒いタブが一番端にくるように、大きなダイヤルをカチャッと音が鳴るまで矢印の方向にまわします。
- タブが一番端にない場合、大きなダイヤルをカチャッと音が鳴るまで矢印の方向にまわします。



- シリンジの目盛りを上にして、ななめにスライドさせるように輸注ポンプに挿入し、速度調整チューブが確実に溝にはまっていることを確認します。



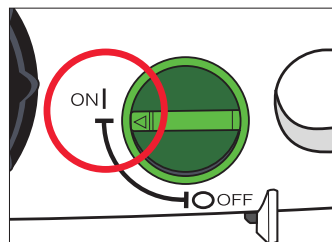
チューブが輸注ポンプ内に挟まれないよう  
注意してください。



## お薬の注入

### ダイヤルをオンにして、注入を開始する

- 速度調整チューブと翼状針のチューブのクリップを開けます。
- 輸注ポンプのダイヤルをオン(ON)の位置に合わせ、注入を開始します。



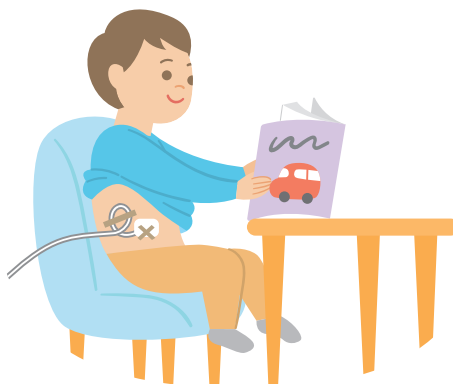
#### 〈お薬について〉

- お薬を注入する前に、液体の色が「無色、薄黄色または薄茶色」で、にごりや異物(小さい固形物)がないことを再度確認してください。(泡は問題ありません)
- お薬をシリンジに入れたら、できるだけすみやかに使用してください。
- お薬は注射部位1ヵ所につき、初回の注射では20mL以下、2回目以降の注射では最大60mLまで注入できます。
- 注入中に気分が悪い、のどに違和感がある、息苦しい、胸がドキドキする、からだがかゆいなどの症状が現れた際は、すぐに注入を中止し、主治医に報告してください。

#### 〈輸注ポンプの操作について〉

- 2ヵ所以上に注入する場合は、必ずすべての翼状針のチューブのクリップが開いていることを確認してください。
- シリンジと黒いタブがはまるまでの間は大きい音が鳴ります。
- この輸注ポンプには総投与量の確認やチューブの閉塞等を感じることができる機能がないため、注入中に輸注ポンプの動きが普段より遅いなど異常を感じた場合は、医療機関にご相談ください。
- 注入中に注入速度の変更はできません。注入速度を変更する場合は翼状針や速度調整チューブを変更する必要がありますので、次回以降に主治医にご相談ください。

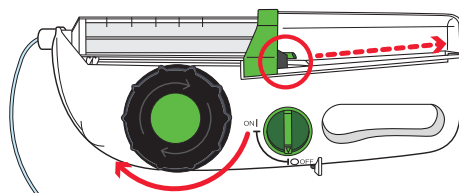
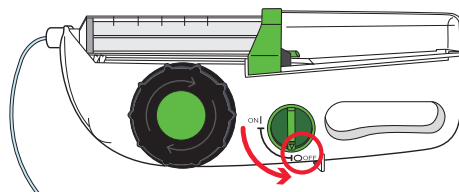
注入中は  
リラックスして  
お過ごしください



## 抜針（針を抜く）

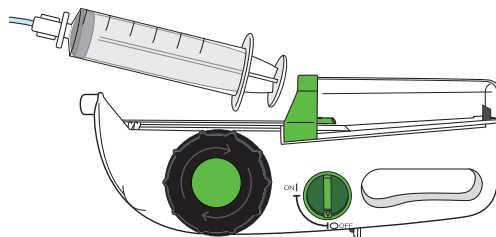
### シリンジを輸注ポンプから取りはずす

- お薬がなくなると、自動的に輸注ポンプが止まるので、ダイヤルをオフ（OFF）の位置に合わせます。
- 速度調整チューブと翼状針のチューブのクリップを閉じます。
- 輸注ポンプの黒いタブが一番端にくるように、大きなダイヤルをカチャッと音が鳴るまで矢印の方向にまわします。



シリンジの中が0mLになっていることを必ず確認してください。

- シリンジをななめにして、輸注ポンプから取りはずします。

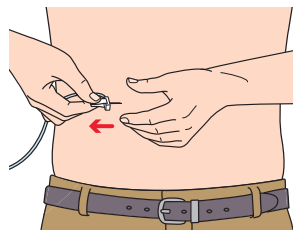


### 生理食塩水（生食）フラッシュ

- チューブ内を生食で流すことも可能です。生食の注入量・注入速度は主治医の指示にしたがってください。

## 針を抜く

- 注入が終了したことを確認した後、数秒ほど待つてからテープをはがし、翼状針をゆっくり抜きます。



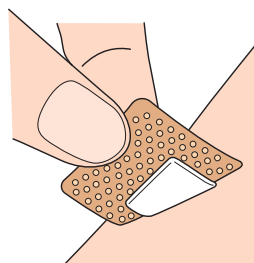
## 2カ所以上に注射した場合

- 2カ所以上に注射した場合は、1カ所ずつ針を抜き、どちらも出血がないことを確認してください。

## 注射部位を絆創膏で保護する

- 注射部位から出血がないことを確かめた後、  
絆創膏ばんそうこうで保護します。

※ 軽い出血があるときは、出血が止まるまでガーゼなどでやさしく押さえてください。

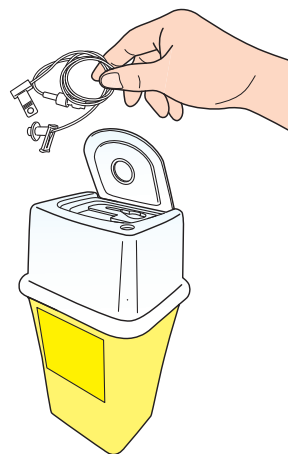


注射後、注射部位をもまないでください。

## 針の廃棄

### 針を廃棄する

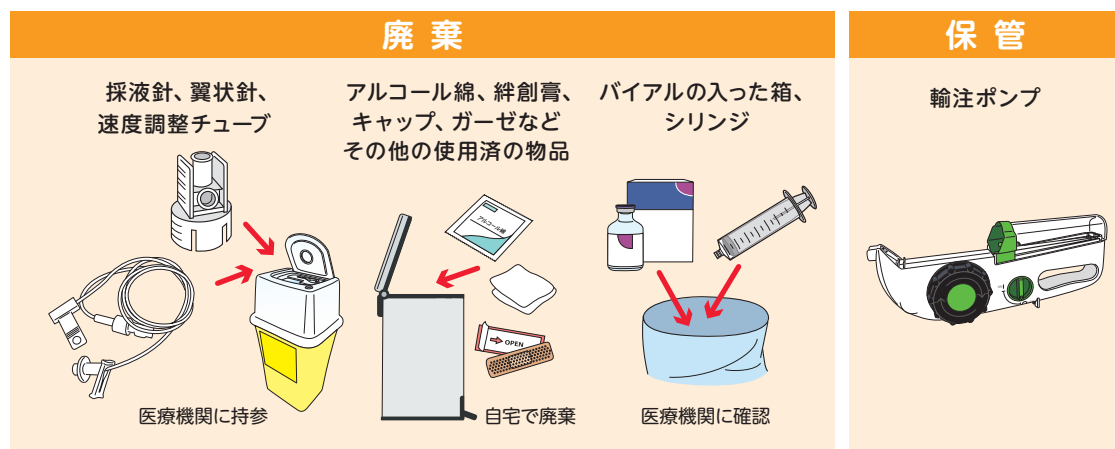
- 速度調整チューブと翼状針のチューブをシリンジからゆっくりはずします。
- 翼状針の針を内側にして折り畳み、キャップをつけずに、そのまま(翼状針と速度調整チューブを接続したまま)廃棄ボックスに入れます。
- 使用済の採液針も廃棄ボックスに入れます。
- ボックスの中身が8割くらいたまってきたら上蓋を閉め、医療機関にお持ちください。



- キャップをつけようとする、指に針を刺す可能性があり危険です。必ずそのまま廃棄ボックスに入れてください。
- 廃棄ボックスの上蓋うわぶたは、一度閉めたらロックがかかり、再度開けることはできません。
- 廃棄ボックスのサイズによって上蓋の仕様が異なります。

## 片付け

- アルコール綿、絆創膏、キャップ、ガーゼなど、その他の使用済の物品は自宅で廃棄してください。
- 輸注ポンプはきれいに拭いて自宅で保管します。
- 使用済バイアルのに入った箱は、製造番号のシールをはがし、箱ごと使用済のシリンジと一緒に廃棄用ビニール袋に入れます。廃棄用ビニール袋の処理しよりに関しては医療機関にご確認ください。
- はがした製造番号のシールは、患者日誌に貼ってください。



キュービトル® 20%皮下注  
製造番号:XXXXXXXXXX



- ❗
- 翼状針、速度調整チューブ、シリンジ、採液針は絶対に再利用しないでください。
  - 上蓋を閉めた廃棄ボックスは医療機関に持っていき、新しいものと交換してください。
  - 廃棄用ビニール袋の処理に関しては、医療機関にご確認ください。医療機関によって廃棄方法が異なる場合があります。

## 記録

- バイアルの箱についていた製造番号のシールを患者日誌の所定の場所に貼り、患者日誌に注入の記録をつけます。



### 患者日誌について —記録ページの簡単なお紹介—

バイアルの箱から製造番号シールをはがしてここに貼ります。

注射部位の痛みに関して、ご自身の症状に一番近い番号を選びます。注射中・注射後それぞれ記録します。

注射部位の痛み以外の症状を書きます。注射中・注射後それぞれ記録します。

日 年 月 日	製造番号シール
体 重 kg	注射部位
前 回 受 診 時 の 血 液 lgG 値 mg/dL	
細 注 入 量 mL	
注 入 箇 所 カ所	実 際 に か か っ た 時 間 時 分
注 入 速 度 mL/時間	
<注射中>注射部位の痛み	<注射後>注射部位の痛み
<注射中>注射部位の痛み以外の症状	<注射後>注射部位の痛み以外の症状
足りなくなりそうな物品など	足りなくなりそうな物
メモ (連絡事項)	メモ (連絡事項)

詳しくは「My キュービトル」をご覧ください。

## 速度調整チューブ/翼状針の種類と投与速度

※F○○○は速度調整チューブの種類を示しています。

### キュービトルの初回及び2回目投与時

	F120	F275	F420	F600	F900	F1200	F2400
単針の翼状針	10.0						

mL/時間/箇所

### キュービトルの3回目以降投与時

	F120	F275	F420	F600	F900	F1200	F2400
単針の翼状針	10.0	19.3	28.9	40.5	57.8		
2又の翼状針		10.1	15.6	22.5	33.7	38.1	
3又の翼状針			10.7	15.6	23.8	27.1	59.3

mL/時間/箇所

出典: KORU社 Freedom60® IFU(取扱説明書-英語) (<https://korumedical.com/ifus/>)  
 投与時間の参考: KORU社 投与速度計算ツール (<https://korucalculator.com/>)

# Webサイトのご紹介



## 原発性免疫不全症 (PID) の患者さん向けお役立ちサイト

- 武田薬品工業がお届けする疾患啓発サイト



くりかえす気管支炎・肺炎・中耳炎ナビ

<https://www.takeda.co.jp/patients/pidnavi/index.html>

- そのほかの各種お役立ちサイト

難病情報センター (原発性免疫不全症候群について)

<https://www.nanbyou.or.jp/entry/95>

難病情報センター (医療費助成制度について)

<https://www.nanbyou.or.jp/entry/5460>

小児慢性特定疾病情報センター (※18歳未満の方が対象)

<https://www.shouman.jp/>



## 続発性免疫不全症 (SID) の患者さん向けお役立ちサイト

厚生労働省 (高額療養費制度を利用される皆さまへ)

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/iryuhoken/juuyou/kougakuiryou/index.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuhoken/juuyou/kougakuiryou/index.html)

## よくある質問 Q & A

### Q1 お薬のバイアルを凍らせてしまった

A 凍らせるとお薬の性質が変わってしまう可能性があるため、そのバイアルは使わないでください。次回の通院時に持参し、凍らせてしまったことを伝えてください。代替りのバイアルがないときは、主治医に連絡してください。

### Q2 お薬のバイアルを振ったり落としたりして、泡ができてしまった

A 落とした場合は、ビンに割れやひびがないか、よく確かめてください。割れやひびがあれば「片付け(p.22)」に従って廃棄してください。代替りのバイアルがないときは、主治医に連絡してください。

割れやひびがない場合は問題ありません。細かい泡は、時間がたつと、だんだん消えていきます。代替りのバイアルがあればそちらを使ってもかまいません。

### Q3 採液針をバイアルに刺そうとして、途中で針が折れてしまった

A 予備の採液針とバイアルを使用して、もう一度「バイアルの確認と準備(p.7)」からやり直してください。最初のバイアルと採液針は、「片付け(p.22)」に従って廃棄してください。また、そのときの状況をできるだけ詳しく患者日誌に記録してください。予備の採液針や代替りのバイアルがないときは、主治医に連絡してください。

### Q4 翼状針を刺そうとして、途中で針が曲がってしまった、または折れてしまった

A 予備の翼状針を使用して、もう一度、「プライミング(p.11)」からやり直してください。針が曲がると輸注ポンプがうまく作動しないことがあります。また、そのときの状況をできるだけ詳しく患者日誌に記録してください。

## Q5 チューブの中に泡が入っている

A 微細な泡は問題ありません。注入前のプライミングは、手順どおり行ってください。

## Q6 注入途中で針がはずれて、お薬が漏れていることに気づいた

A はずれてすぐに気がついたときは、一旦輸注ポンプを止め、翼状針を取り替えて「プライミング(p.11)」からやり直してください。同じ針を使って、もう一度刺さないでください。お薬がたくさん漏れているときは、注入を中止し、主治医に連絡してください。また、そのときの状況(中止した理由や注入された量など)をできるだけ詳しく患者日誌に記録してください。

## Q7 注入中に、痛みがだんだん激しくなった

A 注入を中止し、そのときの状況(中止した理由や注入された量など)をできるだけ詳しく患者日誌に記録してください。  
すみやかに主治医に連絡し、痛みに対する治療を受けて、次の注入について相談してください。

## Q8 注入開始後から痛みがある、皮膚に異常がある、からだに異変がある

A 注入開始後から、注射部位に痛み、紅斑、腫れ、かゆみ、じん麻疹、内出血、浮腫などといった症状が現れたら、患者日誌に記録してください。  
症状がひどい場合や、体調が悪い、熱っぽいと感じた場合には、すぐに主治医に連絡してください。

## よくある質問 Q & A

**Q9** 必要なお薬やシリンジがないことに気づいた  
注入予定日に注射できない

**A** 注入予定日に注射できなかった場合は、主治医に連絡してください。

**Q10** 2本目のシリンジに交換したい

**A** フリーダム60で使用するキュービトル投与用のシリンジの最大容量は50mLです。  
2本目のシリンジによる投与が必要な場合、以下の手順でシリンジを交換してください。

- ① 輸注ポンプのダイヤルをオフ(OFF)の位置に合わせて、速度調整チューブと翼状針のチューブのクリップを閉じる。
- ② 輸注ポンプから空のシリンジを取りはずし、シリンジから速度調整チューブをはずす。
- ③ バイアルより必要量を抜き取った新しいシリンジに、速度調整チューブを取り付ける。
- ④ p.18と同じ手順で新しいシリンジを輸注ポンプにセットする。
- ⑤ 速度調整チューブと翼状針のチューブのクリップを開け、ダイヤルをオン(ON)の位置に合わせてお薬の注入を再開する。

**Q11** 注入が進んでいない

**A** 注入が進んでいない場合は以下の内容を確認してください。

- ・輸注ポンプのダイヤルがオン(ON)になっているか
- ・チューブのクリップがすべて開いているか

## Q12 シリンジ内容量の減りが遅い、または速い

**A** お薬が体に吸収されるスピードや、体の動きによって注入速度が変わることがあります。なるべく安静にさせていただき、運動は控えてください。

- 注入速度が適切でない場合には以下の内容を確認してください。
    - ・お薬や周囲の温度が室温であるか
    - ・輸注ポンプが注入部位と同じくらいの高さにあるか
  - 注入速度が遅い場合
    - ・傷あとや筋肉など、硬い部位に針を刺していないか
    - ・チューブが損傷していないか
    - ・刺入部を圧迫して固定していないか
  - 注入速度が速い場合
    - ・速度調整チューブと翼状針がしっかりと接続されているか
- ※ 速度調整チューブがないと、お薬は予定より早く流れます。  
注入速度を調整したい場合には、注射部位数の増減や注入速度が異なる速度調整チューブへの変更をご検討ください。詳しくは主治医に相談してください。

## Q13 注入中、注入後の痛みを和らげたい

**A** 注入中および注入後は、注射部位に痛み、紅斑、腫れ、かゆみ、じん麻疹、内出血、浮腫がみられることがあります。これらの症状は温める、または保冷剤で冷やすことによって緩和できます。どちらの場合も時間は10分を超えないようにしてください。腫れが長時間(24～48時間)持続する場合はお薬の吸収を促すために温めることも可能です。この場合も10分を超えないようにしてください。

## Q14 輸注ポンプを使わず、手動でお薬を注入するとき

**A** 手動の場合、輸注ポンプ等での注入と比べて、注射部位の痛みや腫れ、皮膚の異常が起こりやすくなる可能性があります。

初めて注入するときは、ゆっくりと注入を開始してください。その後は注射部位の状態を確認しながら注入速度を調整し、最大で約1～2mL/分まで徐々に流量を増やすことができます。





キュービトル 患者さん専用Webサイト

# キュービトル.jp

キュービトルの詳しい情報は、患者さん専用Webサイトでもご紹介しています。



<https://www.cuvitru.jp/patients/>



医療機関名



武田薬品工業株式会社